



百文の行を母に可読許

とて山生身片一奉ハ

来る作入のてや子お揚

他は傷け程に明細に述べる

本の一取中一箇に付て二存

は余多分中一四末

株一奉二成ノ早キ方宜

お取の支取、高不ある中

糸趨の仕付に可なり

打首

二月
ホ六日
美即支雄

大隈一の下

下執事

